

未来の庁舎を考える市民会議

第2回会議結果

令和4年8月8日（月）

午後6時30分～午後8時30分

参加者：19名（参加者一覧のとおり）

コーディネーター：福知山公立大学 杉岡准教授

事務局（宮津市）：4名

（宮崎総務部長、徳澤総務秘書係長、上山情報推進係長、由利総務秘書係主査）

1 庁舎見学（福祉・教育総合プラザ） 18：30～18：45

・4階健康福祉部・教育委員会→4階施設（にっこりあ、障害者支援センターほか）
→3階施設（図書館ほか）の順に見学

※案内者：上山情報推進係長

2 ワークショップ 18：45～20：30

・4グループに分かれてワークショップ

ワークショップに当たって杉岡コーディネーターから前回（7月23日）のおさらいほか全体説明を行った。

■テーマ：

前回会議（庁舎（本庁舎・別館）見学、ワークショップ）、今日（8月8日）の庁舎（福祉・教育総合プラザ）見学を踏まえ、未来の宮津市庁舎はどうあるべき？

—他の市庁舎等の事例も踏まえて—

★各グループの発表概要（発表順は準備できた順、4→3→2→1の順）

【第4グループ発表内容】 市民が行き交う新庁舎～未来への投資～

- 現庁舎を完全に建て替えることを提案。別館が本庁舎と隣接しているが、職員が浜町パーキングに駐車して、徒歩移動している。別館スペースを駐車場にしてはどうか。
- 別館は1階以外使用していないので、現行の1階部署を本館に集約する。
- 整備する新庁舎について、4階建てを想定。3～4階に窓口機能があると利便性が悪いため、市民が利用する窓口機能等は2階までに集約する。
- 現庁舎にはバリアフリー機能が不足しているため、整備する庁舎にはバリアフリー機能を備える。例えば、エレベーター・点字ブロック・多目的トイレ・通路等への手すりなど。
- ミップルは、現状維持。にっこりあがあるため、子育て世代のユーザーはにっこりあ と福祉・教育分野の窓口に行くことに慣れている様子。
- 市民の方でミップルで相談に来たが、結局、本庁舎に戻って手続きを行わないといけ

ないという声もあるようなので、できるだけミップルと本庁舎の往来を減らし、窓口機能を集約すべき。ミップルのみ又は本庁舎のみで、て手続きを完結させるワンストップ化を考えていく必要あり。

- 宮津市は財政が厳しいとのことなので、庁舎整備に係る財源をどうやって捻出するかが課題。例えば、補助金の確保やクラウドファウンディング、一般寄附、ふるさと納税などを検討してはどうか。一方、コスト削減のために、省エネ対策や自家発電、オンライン化による人件費の削減などに取り組む。
- 「未来への投資」というサブタイトルを題した。庁舎整備には大きな投資。将来にわたって庁舎を利用していくことを考えると、庁舎整備は未来への先行投資だと考える。

<コーディネーター講評>

宮津市の財政状況等も踏まえた提案であり、とても現実的な提案だった。バリアフリー化、エレベーターなどの機能を持たすことは市民にとっても職員にとってもメリットがある。

【第3グループ】

- 前回は市民のニーズに合わせた「分散型配置」と「DXの推進」を議論した。
- 本庁舎を建て替えることを前提とし、ミップルは残す方向。公共施設（行政機能）が市内のどこにあるのか、何が不足しているのかについて検討を深めた。
- 本庁舎については、窓口サービスのオンライン化が可能なものはオンライン化を推進する。防災対策として、1階は駐車場、床面を上げてはどうか。ゼロエネルギー（ZEB）の事例を参考に検討をしてはどうか。バリアフリー化、エレベーターの設置は重要。
- コスト面について、本庁舎の建て替えに当たって、オンライン化を進めることによって庁舎の規模縮小を行い、業務のデジタル化を進めることで、人件費や通勤手当を削減する。
- 前回市長が防災面についてふれられた。避難所機能を持たせることのほか、都市部の庁舎ではあるようだが、ヘリポートを整備しているケースもあった。停電した際に対応できるよう自家発電や予備電源機能の整備が必要。
- ミップルと本庁舎に市民が集える交流スペースがほしい。ミップルは現状維持で、図書館や学習スペースは確保する。
- 庁舎近辺に交流する場所（例えばカフェ）を設け、人が交流するように促していく。宮津市内の不用施設の統廃合により、コスト削減を図っていく。

<コーディネーター講評>

防災面を前面に検討していただいたと思う。丹後震災から100年が経過し、大規模地震がいつ発生するかわからない。防災機能の核となる市役所本庁舎の建て替えとともに、庁舎規模を縮小し、駐車場スペースを確保する点についても提案いただいた。ヘリポートの整備といった新しい視点もあった。交流スペースを設け、市民が気軽に立ち寄れる市役所といった提案もあった。

【第2グループ】 未来に課題を残さない

- 主に3点について議論した。(1) 災害対策 (2) 建築 (3) 利便性について。
- 前回市長から話があったが、現行の本庁舎は川沿いにあることや耐震性能が不足しているため、防災面としては脆弱。移転するとして、他の自治体の事例であるが、山の上にある廃校を活用した災害対応施設を整備し、避難所や有事の際に対応できるようにする。
- 耐震性能が不足しているため、庁舎の耐震性能を強化することが第一優先。
- 行政のオンライン化の推進は喫緊の課題である。しかし、オンライン化よりも災害への対応(備え)が最優先事項だ。庁舎の複合化について、商業施設内で住民票等の公的書類が取得できるようにすることも必要な視点。
- 本庁舎について、4階建てにもかかわらずエレベーターが整備されていないため、市民からも不便だという声も聞く。窓口サービスのワンフロア・ワンストップ化を検討してはどうか。

<コーディネーター講評>

耐震性をメインに議論いただいた。利用していない公共施設の利活用についても議論いただいた。この点についても、議論を深めていただきたい。公的書類のミップルでの発行についても提案いただいた。

【第4グループ】 分散型コンパクトシティ

- 分散型に関して、現在、本庁舎とミップルで分散しているが、市民が直接出向いて手続きを行う部署については、ミップルに集約をすることで、市民の利便性の向上を図ることができる。本庁舎、別館は取り壊し、大胆ではあるが、1階は駐車場等防災機能、2階はカフェ等市民が集えるスペース、3階は事務スペース、屋上は宮津市内の景色を見られるスペースにする。別館も市民の交流スペース(カフェ等)などに整備してはどうか。
- ミップルと本庁舎は分散させ、コンパクトシティの観点も取り入れ、駅等からも市民が歩いていける導線をつくり、人の流れを作り出すようにする。

<コーディネーター講評>

本庁舎、別館いずれも取り壊しとするが、市民が来庁する機会が多い窓口部署はミップルに、事業者等が来庁される部署は本庁舎に集約するというので、分散配置での提案だったと思う。市民が集う交流スペースを整備すること、また、「歩いていける」ということがキーワードになってくる。引き続き議論を深めてほしい。

◆終わりにコーディネーターから次回9/26(月)に向け、参加者へアナウンス

今後、他の事例を研究し、各グループで提案を作成してほしい。次回最終回は9/26にパワーポイント(スライド)で発表していただく。9/22 17時までに市総務課情報推進係へ提出を。

宮津市未来の庁舎を考える市民会議(第2回)参加者名簿

	氏名	区分	備考	
1	磯野 恵	社会人		グループ1
2	道林 英鉄	大学生	ファシリテータ	グループ1
3	桑原 瑞生	大学生		グループ1
4	永井 彩花	社会人		グループ1
5	小西 敦也	社会人		グループ2
6	東山 綾	高校生		グループ2
7	上口 貴子	大学生	ファシリテータ	グループ2
8	神近 仁	大学生		グループ2
9	堀 雄翔	大学生		グループ2
10	中島 朋子	社会人		グループ2
11	吉田 俊彦	社会人		グループ3
12	山中 優芽	高校生		グループ3
13	平井 未憂	大学生	ファシリテータ	グループ3
14	村田 唯衣	大学生		グループ3
15	山本 真緒	社会人		グループ3
16	由里 亮太	社会人		グループ4
17	吉田 楓太	大学生	ファシリテータ	グループ4
18	野村 真未	大学生		グループ4
19	森井 友也	社会人		グループ4

事務局

	氏名	所属	職名
1	宮崎 茂樹	宮津市総務部	部長
2	徳澤 雅仁	宮津市総務部総務課	総務秘書係 係長
3	上山 直仁	宮津市総務部総務課	情報推進係 係長
4	由利 隆博	宮津市総務部総務課	総務秘書係 主査